

裏通りに欠かせなかった店

——大宮・さくら小路

さいたま市の中心街である大宮区は、JR「大宮」駅を挟んで対照的な風景が広がるまちです。再開発が進み、大型店が多い西口と比べて、東口は40年以上前にタイムスリップしたよう。古いアーケードや横丁も残っています。

「さくら小路」もその一つ。100m足らずの狭い通りで昭和のオジサンが目についたのは、大谷石の蔵造りが珍しい質屋です。ちなみに宇都宮特産の大谷石は加工が容易で、かつて関東一円の蔵に多く使われました。そういえば、日比谷にあったフランク・ロイド・ライトの手になる旧帝国ホテル本館の外壁にも使われ、竣工直後に起きた関東大震災によく耐えたことが知られています。

さて、問題は質屋です。1960年代まではどんなまちにもあり、最盛期は全国で2万軒以上が営業していました。日本中が貧しかった時代、家計のやりくりで窮した主婦やサラリーマンが、質草を抱えてはノレンをくぐったもんです。多くは裏通りに立地したのも、人目をはばかる客の事情からでしょう。しかし手軽な「サラ金」がどこにもあり、ネットオークション全盛の今、質屋のノレンをくぐるのはいったい誰？



さくら小路近くのレトロな喫茶店は地元の人気店。なんと24時間営業



雨もまた風情あり京の石畳

— 京都・石塀小路

碁盤の目のように大小の通りが交差する京都の中心部。しかし、整然としたまちなみの中に迷路のような道もあります。祇園祭りで見られる八坂神社から南へ下がり、高台寺沿いの「ねねの道」に向かう「石塀小路」がそれ。京都風に言えば、「いしべこうじ」です。和風の家並みと石畳の道が相まって、古都にふさわしい情緒と落ち着きを感じさせます。

この一帯、元々は小路の途中にある圓徳院の広い庭園の一部でした。明治維新後、土地に課税されるようになった税金を工面するために寺が宅地として分譲し、ジグザグの小路が出現。昭和40年代後半には、廃止された京都市電の軌道の石を敷き詰めたことから、現在の姿になったのです。

訪れた日はあいにくの雨模様でしたが、石畳にうつすらと家並みや街灯が映り、いい雰囲気。たまには雨もいいものです。ほとんどクルマが通らない道を、粋な造りの建物を眺めながら歩いている内に、ちよつぷり暮らししてみたい気分になってきます。「閑静住宅地、高級和風建築、交通至便、稀少物件早勝」……。往年の不動産物件情報なら、こんな宣伝文句でしょうか。



灯ともし頃には舞妓
さんの姿もちらほら

